

ちよいワルオヤジの古代史エッセー  
第三回「古代史を楽しんで」一まるで目くらまし

大和川 一路

1. 吉野
2. 耳納連山
3. 福岡での秋の想い
4. 大仕掛けの罨
5. 東風解凍

## 1. 吉野

三重県に飛鳥川師匠を訪ねました。

古代史の情報交換とゴルフ対決で寄宿させていただきます。薫陶をうけてもう17年。

師匠は古代史ばかりでなく俳句にも力を注いでおりました。

冬ざれや露軍の向かう道は無く

また今年歎異抄から読み始め

寒椿散りてなお紅美しき

奥様は「寒椿の句が一番好き」と。確かに夏井先生風に言えば映像がくっきり浮かびあがり、心模様が伝わってきます。投稿したらいいのに。

青森の『豊盃』を頂きながら雑談をしていると、奥様が妙なことを。

「ささっては二人で吉野ね」はあ〜ん？ささってとはなんだ？矢尻でも刺さるのか？

よく聞いてみると、三重県では、あす・あさって・ささって・しあさってと言うらしい。

日本全国こんなことは言わない。伊賀忍者の攪乱ダマシ言葉だ！と思わざるを得ない。

福岡では「おでんに平戸の天ぷらを入れると旨い」と聞かされ、平戸漁港であがった魚を天ぷらにしておでんに入れるのか！福岡県人は変わったことをやるんだなあと思った。後で練り製品と教えてもらったけれども、堪忍してもらいたい。とはいっても「すき焼きにゴボウを入れると旨いよ」とすすめたら、九州では誰もそんなことはしませんよ」と言われ、言葉も食事もこんなに違うものなんですね。

菰野町のパラミタミュージアムで『万葉日本画の世界』展がやっていた。パラミタは般若心経の波羅蜜多。小倉百人一首の失敗以来、万葉集からは遠いところにいたが、越の旅で万葉集を勉強されている方に感化されたこともあり、のぞいてみた。

イオンの岡田さんがつくった美術館です。相聞、晩歌、雑歌からイメージされる歴史を、大画伯様の世界観で描いた五十六枚の日本画がありました。

天武天皇「よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見つ」『瀬』

藤原鎌足「われはもや安見児得たり皆人の得難にすといふ安見児得たり」『安見児』

山部赤人「田児の浦ゆうち出でて見れば真白にそ不尽の高嶺に雪は降りける」『富士』

『富士』は片岡球子のいつものデッカイ青い富士。仁川のパラダイスシティで巨大な黄色いカボチャを見たことがあります。本物だったのかなあ。

安田鞆彦に師事したと書いてあった。

あの師でこの絵か！

現役バリバリとと思っていたが、103歳で亡くなっていた。

平山郁夫の『額田王』は私のイメージと違って、5分ほど視ていたが、額田の目がチョット怖かった。



さて、吉野といえば天武天皇と役行者。

ある先輩が「行者ニンニクは役行者がつくった」とまことしやかにつぶやき、この冗談がインパクトが強くて、今もって頭から抜けない。孫引きですが、続日本紀に「役君小角は葛城山に住み、呪術をもって称えられたが、弟子の韓国連広足にざん訴され、伊豆島に流された」と記されているそうですが、カラクニノムラジですか…。半島のどの勢力なのでしょう。役小角と不比等は同時代を生きて接点があったのでしょうか。

めざす洞川温泉「花屋徳兵衛」は、吉野からさらに奥に入った天川村。創業500年。

修験者が山から下りて休む宿。金峯山寺金剛蔵王大権現様を見るよりも、この温泉に入って、奈良の地酒を熱燗で飲むことにワクワクしていたのかもしれない。

夕刻、温泉街に近づくとつれ電柱看板が読めるようになってきた。

【陀羅尼助吉野勝造】と読める。ダラスケのことだな。小さい頃はよく腹が痛くなった。父親が「ダラスケを飲め」と手のひらにザッと黒粒を出し、腹をさすりながら「〇〇とうしょういちにきいた、〇〇とうしょういちにきいた、〇〇とうしょういちにきいた」と呪文を三回となえていた。痛い時は何をされても抗えないが、子供心にダラスケも呪文も腹さすりも気色悪さを感じていた。あれから何十年も経って呪文を何人かに試したが、全て拒絶された。「爺さまは木曾の御岳山の偉い修験者だ」と自慢していたが、私は知らない。うちにあったダラスケの薬瓶には「御岳百草丸」のラベルが貼ってあった。役行者が各地に教え伝えたのだろうか。

何時間も古代史語りで酒も進み、翌朝の温泉も効いて師弟の頭はボンヤリしていた。

金峯山寺までナビでは19km。離合もできない山道の細道だ。修験者の通る道だ。

「離合って名古屋で聞いたことないですけど、福岡の言葉ですかね？」

「あんたが知らんだだけだよ！」

「免許返上の歳ではないですか？」

「あんたといくつ違う！」

「前から車がきたらどうするんですか？」

「こんな道だったかなあ・・・」

「吉野から入ったんじゃないですか？」

「昔、行った時は大権現様は見なかったなあ・・・」

「違うところに行ったんでしょ!!」

2kmで引き返すことにした。金峯山寺は諦めた。初動の誤りを棚上げし、この決断は正しかったと二人でたたえあった。楽観の珍道中で悲劇は起こらない。

初動の誤りは今に始まったことではありません。

社長(師匠)に同行しドバイに出張したことがありました。シンガポールでトランジット。ならば待ち時間にセントーサ島のカジノにでも行ってみるかとなる。(のが誤り)

空港で軍資金を両替し、洋々とした気分でホテルに向かい、チェックイン。ソワソワしだした。パスポートがない!どれだけ探してもない。焦る。焦る。焦りながら思いつくところに電話する。電話もうまくできない。「社長こういう時は現場に行きましょう」

「出てこないかもしれないな～。こんなことになってしもうて・・・」

ドバイは俺の代理で行ってきてくれ。俺はカジノに行っ、あんたが帰ってくるまでここでルーレットやっ取るわ」

「あのね、パスポートがないとカジノに入れないのですよ」

「・・・・」

行者ニシクノ先輩が「山より大きいイノシシは出ない」「この世で起きたことはこの世で解決する」と良いことも言っていました。深刻になることはない。

金峯山寺の代わりに「天河大辨財天社」に行くことができた。天武天皇と役行者が創建に関わっている。主祭神の市杵島姫命が弁財天様。天之御中主神より百柱の神も祀られているではないか。こんなの初めてだ。天の川銀河の太陽系の地球の日本の天川村だからそれでいいのか。弁財天は水の神だから宗像三女神か。宇宙生成の時間の始まりと倭国の歴史の始まりが、ここ天川で重なりあうように思えた。天川の弁財天にたどりつけた人は幸せになるそうです。凄いパワースポットに行けてよかった。

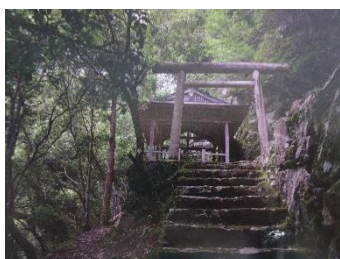
出発前に、ある小冊子が届き「国栖奏と国栖の里」が特集されていた。

「国栖奏は1700年以上前まで由緒が遡る、奈良県吉野の国栖地域に伝えられてきた歌舞である。・・・『記紀』で国栖が最初に登場するのは神武天皇東征時に国つ神三神と遭遇する場面だ」「『吉野旧事記』『国栖由来記』には十市皇女からの密書で近江方が自分を討とうとしていると知った大海人皇子は、吉野を出て、国栖の河辺に向かった。・・・」

国栖人は和田巖に皇子を迎え・・・国栖舞を奉奏して、皇子の心を慰めた。大海人皇子はその場所で幾日か潜居したのち、挙兵した」と記されていた。

国栖の人達が今も天皇さんと呼ぶ「浄見原神社」と神社下の淵の「天皇淵」に行こうとしたのである。しかし、思わせぶりな神社の名前なこと。

同じことがいつも起こる。見当たらないのだ。行きつ戻りつ、鳥居が迎えてくれない。犬



の散歩のおばさんに聞いても、道がなくなって行けない。

「八咫鳥がいるからあっちに行こうか」

「八咫鳥も案内を間違うんだなあ・・・」

冗談が出るからまだ大丈夫だ。水の音もしない。山の音もしない。吉野の山奥では何の音も聞こえませんでした。国栖奏の調べを聞いてみたくもありませんが、そんな機会は訪

れないでしょう。浄見原神社には何か月も前に記帳されたノートが置いてありました。

## 2. 耳納連山

筑紫平野と言えば筑後川（筑紫二郎）。その南に連なり久留米市からうきは市まで続くその裾野は柿、巨峰の一大産地です。「うきはの柿は美味しい」と聞き、「うきは道の駅”まで幾度も買いに行った。三大好物のひとつだから、高速代は惜しくない。

三連水車や平塚川添遺跡もその時に見物しました。

筑後川ではドローンを飛ばしていた。向こうに連なる山々は何だろう。

福岡に来た頃は、耳納連山も山苞の道も読めなかった。かつて戦いで耳の数で戦果を確認して、この山に耳塚をつくったぐらいに考えていた。筑後川の南の陰の地だからあながち間違いではなかろう。古墳もたくさんあるみたいだし・・・。

師匠と『響』を飲みながら天皇の本を見ていた時のこと。「綏靖天皇の和風諡号はかむぬなかわみのみ



ことですよね、越の奴奈川姫とか“ぬなかわ”ってよく出てきますね。それとまたも耳ですよ。耳とは何ですかねえ？」「頭領の意味らしいぞ」

筑後平野には頭領がいっぱい居館を構えていたのでしょうか。この地は豊かだなあと感じていたが、豊かだから分捕り合戦をしたのだろう。豪族が争った古代の記憶が耳納に残っているのかな？見当違いの想像かな？負けた一族はどこに逃げて行ったのかな？

鷹取山があるけれど、あれが安本美典さんの“地名の一致”の大和の高取山になるのか・・・。

田主丸の先輩にローレル日田 CC に誘われてナビで検索をすると、天瀬も玖珠も載っている。これも大和の天ヶ瀬やこの前行った国栖なんだ。いつ頃、どんな理由で多くの人達が東に移動したのだろうか？

これが分れば自信をもって日本の歴史を語る事が出来るのに。

田主丸の先輩は、石垣神社 1250 年祭の「縁起読み」人に推挙され、13 歳にしてこの大役を務めました。この祭りは 50 年ごとに行われ、昭和 33 年を最後にもう行われていないそうです。ここにも少子化の流れで伝承が消えていく。地元の言い伝えを聞いたり、古文書を見せてもらったり、郷土史って初めて面白いと思った。



田主丸では鬼門は「正五九月は北にあり」と言うそうです。大相撲は正五九月は東京でやるでしょ。鬼門が北東になると大阪、名古屋、福岡に移動するでしょ。神事としての相撲と関係があるのかな？

あらぬ方向に話がずれて、私たちは一体何の話をしているのか分からなくなりました。真相は何でもよかろうもんです。

『「重要な発見」最古級“双方中円墳”九州で初確認か』をネットで見てビックリ。

うきは市の耳納連山の中腹の西ノ城古墳（築造は三世紀後半）は双方中円墳。

他例は少なく、天理市の櫛山古墳や高松市の猫塚古墳。（築造は四世紀ごろ）

『初期大和政権や瀬戸内の勢力は大分沿岸から日田盆地、筑後川を通過して有明海へと抜けるルートを重視。西ノ城古墳の集団はこうした交流の中で双方中円墳を取り入れた』

北部九州の盟主が奴国から邪馬台国に代わり、その領域も重心も移動していった。遠賀川流域のニギハヤヒは先に大和に入っていたし、神武天皇も東に行った。ヤマト政権の成立過程も整理できていないのに、一番古い西ノ城古墳が大和政権とどう結びつくのかさっぱり分からないのです。西から東への流れが、東から逆流してくるので頭がショートしてしまう。歴史認識の基点が違うからこうなってしまうのでしょう。

考えたところで引出しが少ないから解は導かれない。

もう 20 歳若ければ乗り出したくもなるが、今は富有柿を食べているほうが気が楽だ。

頭の中の 5S をやると宣言したが、若い時に比べ、根性とスピード感がまるで違って、有言不実行なんです。

理由は分かっています。年金をもらって、納期のない世界に生きているからなのです。

でも、頭の中の異説・珍説・暴論などどうでもいいことを消し去り、考古学の成果と文献、時代と人を結びつける頭の回路が切実に欲しい。

#### 閑話休題

定年後に、スーツもネクタイも写真も年賀状も熊の木彫りも全部捨てた。あなたも終活で 5S をやらないとだめですよ。もうそういう年齢になったんですよ。そう言った。

「なに？」「ごえすってなに？」「九州の人は 5S なんて誰も知らないよ！」エエッ！信

じられない。また“九州の人“ときたか！ごえすじゃなくてゴエスと言うんだ。

ゴエスとは整理、整頓、清掃、清潔、躰のことだ。みんな発音がSから始まるでしょ。女子は箱も瓶も紐も紙袋もなんでもかんでもとっておくでしょう。それがだめなんだよ。みんな捨てにゃ。箱は停滞箱といって、箱を置くと書類がたまるんだよ。

だから会社で茶箱を使うことを禁止した。「直線直角面合わせ」というのもあるんだぞ。

「それがどうした、家は会社じゃない！」「そんなこと言われなくても、いつも掃除している！」掃除とは違うんだよなあ。工場の現場改善風に言えばこういうことだ。

㊦整理とは要不要を区分して、不要なものは捨てる。

㊧整頓とは情報を取り出しやすくする。

㊨清掃とは問題点を見つけ、課題を明確にする。

㊩清潔とは維持管理する。

㊪躰とは決めたことを守る。こういうことなんですよ！ わかりますか？

「それが何か役に立つんか？ はあ～ん？」「会社しか知らん人間は困ったものよな」

「古代史で遊んでいてもいいけれど、それで飯は食えるんか？毎日カレー食べとくか。頭の中はぐちゃぐちゃで、そんなことばかり言っていると友達なくすぞ」

もう何年も前に言われていたのだ！

週刊現代「ズボラのすすめ。70歳を過ぎたらダラダラ生きる」もうこれにしようかな・・・。

### 3. 福岡での秋の想い

W杯の応援で真夜中に興奮し、朝方にもまた興奮して体調が崩れてしまった。

冬眠して映画を一气見する。『英国王のスピーチ』『最強のふたり』『大統領の執事の涙』『サウンドオブミュージック』『ショーシャンクの空に』『天使にラブソングを』・・・

繰返し読む本はほとんどないが、映画は何度でも観る。古代史より好きかもしれない。

幼少の頃、『無法松の一生』とか『南国土佐を後にして』とか父親と観たが、よくぞ子供を連れて行ったものだ。

高校の頃は、刈谷駅の三本立ての映画館に入りびたりで『いちご白書』を鮮烈に覚えている。キム・ダービーが好きだった。『ひまわり』も観た。リアルタイムでみんな観た。

京都で下宿していた頃には、団地妻の宮下順子を仲間と応援しに行った。70年安保は終焉し、みんな自分が何者か分からなくなっていた。マックス・ヴェーバーも高橋和巳も宮下順子も半世紀過ぎれば、同じ記憶の箱の中だ。

社会人になって、せめて月に一回は映画館に行くことを課して手帳に記していたが、団塊の世代を追走し、仕事ばかり、飲みばかりで音楽や映画から遠ざかっていった。

90年バブルの前後10年ぐらいの心に残る潤いの記憶がすこぶる欠けてしまっている。



久しぶりに博多のまち歩きに出かける。

まず、博多駅で映画『ある男』。ヴェネチア映画祭で上映されたと聞いたが、5人しかいなかった。

在日三世の弁護士役の妻夫木君が刑務所で柄本明に接見する場面は『羊たちの沈黙』を思い出す。子羊が悲鳴を上げて、それでも群れが逃げない理由が今日まで分からない。キリスト教世界観での羊と獣、神と俗、聖と淫を知らないからだと思う。

『ある男』は差別やヘイト、偏見ギリギリの表現や衝撃の結末があって、それを戸籍交換と書くとネタバレですが、自分は何者なのかを考えさせる映画かも。『羊たちの沈黙』のアソニーホプキンスはいい。『レッド・ドラゴン』でクラリスの登場を予感させる最後と、『ハンニバル』でレクターとクラリスと犯人との食事風景は仰天、卒倒もんです。ダンテとか宗教絵画とか素養のある方はこの三部作をもっと楽しめるかもしれません。別人として生きていく妻夫木君の『ある男』の続編を期待しましょう。

丸善に行く。古書学・考古学・古代史・中世史とコーナーが順番に仕切られているが、邪馬台国・卑弥呼が考古学コーナーに置いてある。へえ～そういう扱いをするか。歴史じゃないのか。神功皇后もいないし、おかしいな～と思い郷土史コーナーで『景行天皇巡幸記』を見つけた。これを読むことにした。

でも、こういう分類でいいのかな。古代史おじさんの目線と違うんだけどな～。

古代史おじさんは次々と何冊も関連本を買うからこの分類ではいかんのですよ。

次は天神に行って、「照和」でコーヒー飲みながら、巡幸記を読むことにした。



「照和」って、昭和人間の聖地で、田主丸の先輩が私を連れて行った気持ちが分かる。チューリップや甲斐バンドや海援隊や長渕剛がこのライブ喫茶から巣立っていったそうです。「虹とスニーカーの頃」は一時期よく歌ったが、下手の極みでヤケクソ拍手をもらっていた。私はポップスでやり通したが、路線間違えであったことが最近分かった。「味噌汁の歌や

「無法松の一生」、「月の法善寺横丁」をセリフ入りで歌う先輩方がカッコいいのだ。

「照和」ではフォークソングが流れ、舞台には今も楽器が置いてある。「どうしても来たかったです 島倉千代子」の色紙は茶色くなっている。あの頃に戻ってしまう。

いつも三時に銭湯に行って、下宿でスリーフィンガーを練習していた。陽水と拓郎、パイトと麻雀、仕送りが来るとパチンコで負けて、四年間、四畳半の生活だった。

先に昼ご飯で、牛カツ定食なるものを食べてみるとこれが旨かった。美味そうなお店がいっぱいあるな～とキョロキョロながめていたら、そうしたら西鉄電車に乗っていた。あれ、「照和」と大名小学校に行くんじゃないの？

天神ビックバンで福岡は一大金融センターになると聞きました。旧大名小学校にスタートアップのベンチャーが集まって、続々上場して凄いことになるという噂を聞いたから、どんな企業なのか調査しに来たのに。



三日後、同じように天神で降りて、新天町を通り抜け、旧大名小学校まで直行していると美味しそうな炭火焼ハンバーグの店を見つけ、大将に「レアで食べてもいいですよ」と言われ、気が散らないように、二の舞にならぬように味わいました。

看板のスタートアップ企業をたどっていくと、株式会社デジタルガレージがあった。

エエ？東証プライムの時価総額 2000 億の企業なのにどうしてここに。

ネットで調べて腹落ちした。2017 年 9 月「福岡地域戦略協議会と提携し、福岡市におけるスタートアップ起業支援を開始」とある。

夢か妄想か想いが巡る。

【古代史創生ネットワークスを起業し、このベンチャーと協業して古代史の真相を明らかにする。専門家と在野のあらゆる情報をデータベース化して、AI に学習させ、時系列を整理し『99.9%これが日本という国の成り立ちと歴史』を示してもらう。

これで正論合戦の消耗戦に終止符を打つ。知の巨人が現れないなら、福岡発のベンチャーの若い人たちにまかせる。AI の知を味わってみたいものです。

「資金調達はどうするの、売上はどうするの」ときつと言われる。そんなことは事業化計画のいろはだ。日本人が日本の歴史を語る事が出来るようになることは誇りだ。この歴史検証の成功で、世界からの引き合いで需要が爆発する。東証プライムに上場、初値は売出価格の 10 倍。みんなバンザ〜イ!!】

午後 2 時、親不孝通りも人でいっぱいだ。

歳をとったら街にでよう。夢想、妄想、回想もたまにはいいでしょう。

#### 4. 大仕掛けの罠

冷たい冬がやってきました。

第九を聴いた次の次の日の夜中、知恵熱がでたのか、朝方まで眠られず悶えた。人生初の 100 人編成の第九の余韻のせいじゃない。この文章を読んではまったからだ。

終楽章で合唱が導入される瞬間こそ、後にワーグナーが言ったように、楽器にもはやできることがなくなって声楽が後を引き継ぐ瞬間であった。こうして、19 世紀の交響曲は混迷を迎えてゆくことになる。

第一楽章 原初の混沌を思わせる茫漠とした音調から、次第にまとまりをなして分厚い響きの世界が構築されてゆく。



第二楽章 緩徐楽章ではなく、激しい3拍子の（スケルツォに近い）楽章を置くのは異例の構成である。

第三楽章 この緩徐楽章は「アダージョ」と、メヌエットの動きが念頭に置かれた「アンダンテ」の2つの部分に基づく変奏である。それは紛れもなく「天国の静謐」と「現世の楽しみ」の対置でもあり、これを象徴するのが、第一楽章をつらぬく「ニ長調 vs. 変ロ長調」の対置に他ならない。

第4楽章 ようやくあの「歓喜の主題」が現れる。当時シラーの詩にあまた付けられた音楽の中でも、最もシンプルで朗らかな旋律だ。音楽はこの「歓喜のニ長調」と「現世の変ロ長調」を両軸として進むが、やがてこれらを統合した第3の世界が現れる。・・・こうしてシラーの望んだ楽園は、ベートーヴェンの愛した夜空の星のもと、高らかに具現化する。

私、何もかも分からないのです。プログラムノートのこの文章、何が書いてあるのか全く分からない。演奏が始まって5分で寝た、この大失態の理由だけは分かりました。

第一楽章の茫漠とした音調の時に眠りに入って、第二楽章の激しい3拍子の時に起きた圧巻の合唱が終わると、隣のカーキ色のおばさんの熱狂の拍手を私はいぶかしく見た。門外漢とはことほど左様なものなのか。合唱は素晴らしいけど文は難解すぎる。

交響曲第九番ニ短調作品 125「合唱付き」だけど解説はニ長調とあるし、何だろう。

この日、アクロス福岡のシンフォニーホールに庶民は何人いたのだろうか。音楽界の人は当たり前前にこの解説が分かるのだろうか？ベートーヴェンを礼賛しているようだが、

確かに合唱には圧倒されてブラボー!!と叫びたくなるが、ドイツ語の「ハレタルアオゾラ」は全体主義を思わせるな～。「ミーシェル マーベール」みたいなフランス語では第九は歌えそうにないし。チョット天上界の話してみたい。

クラシックを専門にしている人達は、ビートルズまでこんな風に解説するのだろうか。なぜ、ビートルズを持ち出す？ベンチャーズやローリングストーンズかもしれないが、昭和20年代生れの人生をつらぬく音楽で、基点だからそう思っただけです。

大晦日、三越で牛肉を探すと目の玉が飛び出るほど高かった。身の丈に合わない。

かなわんな～と思い、家の近くの市場で霜降りを200gだけ買った。

店内には第九の合唱が鳴り響いている。心躍らせる作戦なんだろう。

パチンコ店は年末年始無休営業。『エヴァンゲリオン』は7連荘すると第九が流れて、それが大げさすぎてこちらが恥ずかしくなってしまう。連荘（レンチャン）というのは高確率モードが続き、玉がザクザク出てくることです。歓喜の記憶が忘れられず、何時間もこの台から離れようとしな。市場で第九を聞いて正月の準備をし、第九を聞こうと『エヴァンゲリオン』に殺到する。庶民は第九をこんな世界で聴いています。

年末に NHK の「音楽紀行」を見たらベートーヴェンをやっている、こんな内容でした。

ベートーヴェンは楽聖になってしまったが、どうも秘書のシンドラが「会話帳」を改ざんしたらしい。ゲーテやファウストを登場させたり、きわどい話を消したり、曲の速度を 100 から 80 に替えたり、ベートーヴェンの神格化に手を染めた。

東西ドイツの国家戦略にベートーヴェンは利用された。

カラヤンはベートーヴェンで勝負をかけ、全集で大成功し帝王になった。

第五の初演は 1808 年で 18 年後に楽譜の初版が出た。ベートーヴェンは悪筆で問題が生じており、ベートーヴェンを真の姿に改めるため「校訂プロジェクト」が立ち上がったが、東西冷戦で完成をみなかった。

ベートーヴェンの真の音楽＝真の歴史を今も専門家が探っている。

女性の研究者が総括でこう締めくくりました。

「そもそもシラーは酒宴の歌を考えていた。お酒を飲めばすべての人々は兄弟となる。この程度なんですよ。大げさすぎたのですよ」

よかった。

でも、双方中円墳やベートーヴェンは、私の中で目くらましの始末が出来ないのです。

初期大和政権って、いつ頃、どこで、どの大王が？ 大げさすぎるベートーヴェンと同じように、日本の歴史を専門家が素人を幻惑するような解説をしている。決めつけ論や特殊用語、難解な文章では、どうしても素直に対話できない。

「歴史はたえず水の流れるように継続する」

だから、国の成り立ちをこのように考えていました。歴史の起点は奴国。

私の基点は「漢委奴国王」で、西暦 57 年に奴国の天御中主に金印が授与される。

同年、新羅では倭人のソクタレが解脱王として即位した。

倭人の勢力は半島にまで及び、出雲、丹波、越など日本海諸国とも連携していた。

「倭国大乱」とは北部九州での争乱で、180 年頃に卑弥呼が登場し 247 年まで君臨した。その後も領土の分捕りあいが続き、血族の豊の国の台与が女王となり、266 年西晋に朝貢し、そして邪馬台国は歴史から消えた。“謎の四世紀”に日向にいた天御中主の血族は東に向かった。先行のニギハヤヒは神武に譲り、橿原でヤマト王権を打ち立てた。神功皇后は血族の故地の平定に行った。九州や新羅に行くことは無理筋とは思えない。

「漢委奴国王」はニンベンがないから、「かんのいとこくおう」ですよと聞いて基点が揺らぎ、「一大率は魏の任官なんですよ」でまた揺らぐ。

奈良盆地には先住の長髓彦がいて、脛が長いからナガスネヒコは外人と思っていた。

建国の歴史も説が多すぎて、50年前の説なのか最新の説なのか鮮度の見当もつかず、二進も三進も行きません。

記紀は後世への大仕掛けなのか。本当は史実であって、脚色が過ぎたのか。

「俺は役割をはたすために脚色もしたが、それを剥がせば、みんな史実だったんだよ。後世の人は解き明かすだろう」と不比等はフフフと考えていたのかもしれないね。

## 5. 東風解凍

ー5度なんて。その冷たい時に「三夜様」に行ってきました。

昨年、田主丸の先輩に案内してもらった時、月読神社は目の神様と教えられた。

確か月読尊は伊弉諾尊の右目から生まれたのでその関係かな？先輩に色々聞いてみた。

そもそも、さんやさまとは何ですか？

月読神社がどうして田主丸に？

植木の露天が今年では出てませんね？

河童がいっぱいいますよ！ウサギもいますね！

先輩がこう言った。「田舎にはなぜはない」

伝承は受継ぎ、守る。それだけなのだ。



寅さんが現われたら、こう啖呵を切るんだろう。

「そこのおじちゃん！松は男の立ち姿、かっこいいねえ。芽吹くというから、目に効くんだけどね、今年から植木の店が集まらねえよ。みんな歳くってしまっさ、日本国はどうなるんかねえ」



「そこのむかし綺麗だったおばちゃん！知ってるかい。三夜様ってえのは、二十三夜に大勢様で飲み食いしながら月の出を待つんだよ。ほら河童にも吞ませてあげなよ、拝んでるよ。黄桜3本しえん円にまけとくよ」

東風解凍（はるかぜこおりをとく）

裂田溝と安徳台遺跡を案内してもらいました。

「さくたのうなで」と読みます。狂心渠みたいなものかな？断層でもあるのかな？

違いました。神功皇后が神田に那珂川から水を引こうとしたが大きな岩が邪魔で、武内宿禰に命じて神祇に祈り、岩の上で火を焚いて水をぶっかけると岩が裂



け水が通じた。超約するとういう事みたいす。日本書紀を読むと、きっちり書いてありました（巻第九 神功皇后 九年夏四月三日・・・）また第九か・・・。

ブラタモリの影響か、高低差があると断層を連想しますが、案徳台は阿蘇の火山灰が堆積して、浸食されたそうです。古墳はへりにあるとタモリが言っていましたが、安徳台の甕棺もへりに埋まっていたそうです。国史跡なのに案内板ひとつ有りませんでした。

この春には福岡に移住して2年になります。思いの通り古代史を楽しみました。

今年是天拝山、片縄山、古処山、油山、竜王山、飯盛山、高祖山、可也山などを歩き、山頂から四季の景色を眺めてみます。

福岡で見る景色は、どこに行っても景色に歴史が張りついている。

青春、朱夏、白秋、玄冬と言いますが、季節の色と違うけど心模様をいうのだろうか。

古希を迎えてしまった！日常がモノトーンにならないよう気をつけます。